

西原町議会だより

西原町

住所：〒903-0220 沖縄県中頭郡西原町字嘉手苅112番地 TEL098-945-5122
発行：西原町議会 編集：議会広報調査特別委員会 印刷：丸正印刷株式会社

2014(平成26)年3月1日発行

No.59・12月議会



タブレット端末を活用した謎解きイベント「天使金丸の冒険Ⅱ」の参加者たち

主な内容

- 平成25年度一般会計補正予算可決……………2P
- 平成25年度特別会計補正予算可決……………3P
- 条例の一部改正……………4P
- 工事請負契約の変更・動産の取得……………5P
- 意見書・陳情等……………6P
- 同意・その他……………7P
- 一般質問……………7～15P
- 第1回臨時会 ほか……………16P

今回の表紙題字：西原町文化協会書道部 我喜屋明正さん

第1回 臨時議会 1/31

東部清掃施設組合規約の変更

全会一致可決

これまで南城市（旧佐敷地区除く）、八重瀬町の可燃ごみ処理していた鳥尻環境美化センターの閉鎖に伴い、東部清掃施設組合で同地区の可燃ごみ焼却処理を、鳥尻消防清掃組合で南城市佐敷地区の可燃ごみ以外の処理を行うことになったので規約変更が必要となった。組合の共同処理する事務、組合議会の組織、執行機関の副管理者数の増、組合経費の支弁方法等についての規約が変更された。

沖縄の未来に禍根を残す仲井眞知事の名護市辺野古沖公有水面埋め立て承認に強く抗議し、辺野古移設断念を求める意見書(要旨)

賛成多数可決

仲井眞知事の普天間飛行場の辺野古移設に向けた埋め立て申請の承認は、過重な基地負担に苦しむ沖縄への構造的差別に対して一つにまとまった県民に無用の混乱と対立を持ち込むものであり、知事に対し、下記の事項を要請する。

記

- 1 知事は、普天間飛行場の辺野古移設に向けた辺野古沖公有水面埋め立て承認を、撤回すること。
- 2 知事は、日米両政府に対して、普天間飛行場の辺野古移設計画の断念及び実効性のある基地の負担軽減を求めること。

2014年1月31日
あて先 沖縄県知事

西原町議会

【賛成意見】

- ・埋め立て承認は、嘉手納基地並みの新基地づくりに他ならない。
- ・基地集中は、経済活性化・雇用の問題の自立につながる。
- ・これまで辺野古移設は困難との立場であった知事が、基地と金（振興策）をリンクさせた責任は重い。

【反対意見】

- ・知事の承認は、政府から辺野古への飛行場建設を前提とした普天間飛行場の移設を迫られた苦渋の選択で、仕方のないものである。
- ・知事個人でなく、日米両政府に訴えるべきものである。

民意を無視し辺野古移設を強引に押し進める政府を糾弾し、普天間飛行場の早期閉鎖・返還と県内移設断念等を求める意見書(要旨)

賛成多数可決

辺野古移設の賛否を争点として平成26年1月19日行われた名護市長選挙で、辺野古移設に反対する現職が当選し明確に民意として「反対」の意思を示したにもかかわらず、同月21日・24日に辺野古移設関連事業の入札公告を行い、普天間飛行場の辺野古移設を強引に押し進める政府に対し、下記の事項を要請する。

記

- 1 普天間飛行場の辺野古移設を断念すること。
- 2 普天間飛行場を早期閉鎖・返還すること。
- 3 沖縄県への過重な基地負担軽減を着実に実行すること。
- 4 沖縄県・名護市に対して、辺野古移設に向けたいかなる圧力・要求も行わないこと。

2014年1月31日
あて先 内閣総理大臣、内閣官房長官、外務大臣、防衛大臣、総務大臣、沖縄及び北方担当大臣、外務省特命全権大使（沖縄担当）、沖縄防衛局長

西原町議会

先月号（第58号）議会だよりで誤表記がありましたので、お詫びして訂正します。関係者にはご迷惑をおかけしました。

お詫びと訂正

【誤】	【正】
7頁 工事請負契約 ・(外構)、大嶺土建 ・7,549億5万円 ・3番目の工事名 西原町庁舎等複合施設建設工事(外構)	→ (外構)、大満土建 → 7,549万5千円 → 西原運動公園陸上競技場改修工事(その2)
13頁下 有田 力 議員 一般質問 ・1段目「～年度別開館日数は。」 教育部長答弁 「～開館日数が～」 教育部長答弁 「～96六日。」	→ 「～年度別開館日数は。」 → 「～開館日数が～」 → 「～96日。」
14頁下 宮城秀功 議員 一般質問 ・中段 「桃原の資材置場に～」	→ 「問 桃原の資材置場に～」
18頁下 前里光信 議員 一般質問 ・2段目の2行目三善(機)	→ 三善建設機
・説明写真→自治会事務所ではなく、自治会文庫の写真を誤って掲載。	



編集後記

◇去る一月三〇日に町議会広報研修会があった。毎年一回開催され、編集者としては良い刺激を受ける機会となっている。多少は我が「議会だより」にも生かされているのでは。……？。その所は読者である町民の判断に委ねるとしまして、この広報委員会も今年九月までの任期。無事務め上げて行きたい。

◇このあとがきを記したのは、折よく冬季オリンピックの真最中。常夏の沖縄には少し縁遠いスポーツの祭典ではあるが、日本選手も含めたその躍動と熱気・感動は、やはり特別なものがある。二〇二〇年には夏季東京オリンピック、パラリンピックも開催される。沖縄の若者達もすでにそれに向けて動き出している。様々な問題・課題はあるが、一つの目標として日本国民がしっかりと見守る必要がある。大いに期待したいものだ。

◇我が西原町の新庁舎の完成も迫り、新たな街の拠点も活かされるかどうか、職員も議員も、又、町民皆さんもその役目を負っている。協働・共生のまち、住みよい西原町づくりに、午年の今年、共に邁進していきましょう。

(喜納 昌盛)